

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」にみられた課題

**1** 第一学年  
次の(1)～(6)に答えなさい。

正答率 40.8%  
無解答率 4.1%

(1) 次の①、②の文中の——線部の漢字の正しい読みを、ひらがなでていねいに書きなさい。  
① 丁重に断る。

- 第二学年
- 1 クラス写真を採る。
  - 2 連載小説の筆を採る。
  - 3 気象予報士の資格を採る。
  - 4 私たちは、彼の意見を採る。

正答率 41.4%  
無解答率 0.2%

第2学年 問1(4)  
【同訓異字】誤答例  
○3「資格を採る」を選択している。  
1「撮影する」、2「執筆する」、3「取得する」、4「採用する」など同じ意味を表す熟語から連想させましょう。

第1学年 問1(4)  
【漢字の読み】誤答例  
「ていねい」や「ていじゆう」という誤答が多くありました。

マスター問題集 ①・②  
チャレンジ確認シート H27A⑨3 H26A⑧3 H25A⑧3  
チャレンジ確認シート H24A⑦6(2)

「話すこと・聞くこと」にみられた課題

2  
きくくに中学校では、毎週水曜日の昼休みに校内放送を行っています。今月は、先生方に興味や特技についてインタビューし、その内容を放送します。  
次の文章は、「校内放送の模様」です。放送委員の森さんが田中先生にインタビューしています。これを読んで、あとの(1)、(2)に答えなさい。

(2) 森さんは、「メディアの選び方は人それぞれである」ということに注意し、このインタビューをしめくくりが考えられます。どのような場合に「ラジオ」という言葉を使つて書くことか。  
条件1 「メディアの選び方は人それぞれである」ということに注意し「ラジオ」という言葉を使つて書くこと。  
条件2 「校内放送の模様」をよまえ、聞いている生徒への呼びかけになるように一文で書くこと。

正答率 39.7%  
無解答率 11.7%

チャレンジ確認シート H28A①1

第2学年 問2(2)【話すこと】誤答例  
○「メディアの選び方は人それぞれである」ということが表現できていない。  
(例)みなさんも一度ラジオを聴いてみてはいかがでしょうか。→「ラジオをあまり聴かない人もいますが」などの記述があると正答になります。  
○校内放送の様子が踏まえていない。  
(例)みなさんも自分に合ったラジオを見つけてみてはどうでしょうか。  
○聞いている人への呼びかけになっていない。  
(例)私もこれからラジオを聴いていきたいと思います。  
○一文になっていない。

「書くこと」にみられた課題

第1学年 問4【書くこと】誤答例  
○石がきの解説を書いているもの  
(例)見出しは和歌山城の石がきにします。和歌山城の石がきは石をそのまま積んだのが野面積み、大きな石の間に石をつめて積んだのが打ち込みはぎ、そして切りそろえた石を積んだものは切り込みはぎといひます。  
○見出しとその理由を書いているもの  
(例)「石がきの種類」という見出しにします。なぜなら、「野面積み」や「打ち込みはぎ」「切り込みはぎ」といった石がきの種類と石がきによる時代の関係を知ってもらいたいからです。  
○見出しを書いていないもの、またはパンフレットに書く内容について書いているのか見出しについて書いているのかが明確になっていないもの  
(例)・和歌山城の石の積み方に違いがあることを書きます。資料を見ると、「野面積み」や「打ち込みはぎ」、「切り込みはぎ」があります。切り込みはぎ、打ち込みはぎ、野面積みに変わった理由を詳しく書きます。

4  
田中さんのクラスでは、和歌山県を訪れる人に県内の見どころを紹介するために、「観光案内パンフレット」を作成することになりました。田中さんと山下さんのペアは、題材として和歌山城を選び、パンフレットに書く内容を考えています。  
次は、「パンフレットのイメージ」と「田中さんと山下さんの会話」をよまえ、あとの(問い)に答えなさい。  
これらを読んで、あとの(問い)に答えなさい。  
〔問い〕田中さんは、パンフレットに書く内容を考えています。あなたなら、どのようなことを書くか、次の条件1～3に従って説明しなさい。

正答率 39.6%  
無解答率 11.4%

チャレンジ確認シート H28A②2

「あなたならパンフレットにどのように書きますか」や「見出しと、その見出しを付けた理由を書きなさい」という問いと勘違いしたと思われる誤答が多くありました。まずは、【田中さんと山下さんの会話】の流れ、問い及び条件から「見出し」と「パンフレットに書きたい内容」について説明するという課題であることを読み取る必要があります。同じ題材を用い、目的や意図を様々に設定することで、書き方や書く内容の違いを体験させましょう。

「読むこと」にみられた課題

正答率 35.4%  
無解答率 9.5%

正答率 33.4%  
無解答率 0.6%

第1学年 問3(3)【文章の解釈】誤答例

○ブルーとの再会前、再会後のどちらかの様子しか答えていない。

(例)体が軽く二日前にはしびれたようになっていた右の後足ももうほとんど元通りになっている。／だんだんスピードをあげて走った。／いっさんに走った。／周囲に気を配りながら走るようになった。

○再会前後のタータの様子が対照的にとらえられていない。

(例)ブルーと再会前はスピードを上げて走っていたがブルーと再会後はへとへとになっていた。

マスター問題集

⑪・⑫(1)(3)(4)②

チャレンジ確認シート

H28B③1・H25A②1

(3) **3** 一年生  
次の文章を読んで、あとの(1)～(7)に答えなさい。  
※印には(注)がある。  
に書きなさい。

(5) 文章中、「〇」のような不思議な現象が生じる理由」とありますが、その理由が端的に述べられている一文を探し、「〇」に続くように、必要な部分を抜き出して書きなさい。

4	3	2	1
①	①	①	①
②	②	①	②
③	③	②	③
④	④	③	④
⑤	⑤	④	⑤
⑥	⑥	⑤	⑥
⑦	⑦	⑥	⑦
⑧	⑧	⑦	⑧
⑨	⑨	⑧	⑨

(1) **3** 二年生  
次の文章を読んで、あとの(1)～(7)に答えなさい。  
※印には(注)がある。  
ものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

第2学年 問3(1)【文章の構成】誤答例

○3または4を選択している。

3は、5段落が4段落の具体例となっているため、ここで分けることは適切ではありません。また、4は、8段落は7段落に出てきた単語について述べているため、ここで分けることは適切ではありません。各段落ごとの結び付きの強さを考慮させましょう。

マスター問題集

⑧・⑮(3)

チャレンジ確認シート

H25B①2・H24B②3

正答率 12.1%  
無解答率 10.5%

第2学年 問3(5)【文章の解釈】誤答例

この問では「笑顔に似た表情を作りながら漫画を読むとおもしろく感じられる。」という不思議な現象が生じる理由を尋ねています。

○4段落から答えを探している。

理由は、5段落で具体例を述べた後に分かりやすくまとめられています。

(例)脳が外の情報を得るためには、体を通して感知する

○『～から。』に続くように、必要な部分を抜き出して書く」という条件を守れていない。

(例)体の動きや状態は、思考や心理にも影響を与えるのです。 ⇒ 正答「～与える」

マスター問題集

⑬・⑭(1)(2)(3)  
・⑮(1)(4)

チャレンジ確認シート

H28A③2・H26A⑤2  
・H25A②2

課題が顕著にみられた問題

正答率 64.5% 無解答率 5.4%

第2学年 問3(6)【文章の構成】誤答例

①「句読点も一字と数える。」という条件を見落とし、文末の「。」を付けずに解答しているもの ←最も多い誤り

②本文中に書かれているいくつかの問いのうち、正答となる最初の問い以外の問いを解答しているもの

③「問い」とは、疑問文であるということがわかっておらず、疑問文でない部分を解答しているもの

④「一文で探す」という条件を見落とし、「問い」にあたりと考えた疑問文に加え疑問文になっていない部分まで抜き出し、二文以上で答えているもの

説明文(論説文)を読む際に「問いと答え」を押さえることは、小学校から繰り返し学習しています。③や④のように、「問い」の定義が理解できていない生徒は、初歩的な段階でつまづいていることが考えられます。やさしい読み物を用いて、「問い」やその「問い」に対応する「答え」を探すことに慣れさせましょう。

指導のポイント!



授業で習得したことが他の場面でも活用できるよう、形を変えて繰り返し学習できるようにしましょう!

★「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、日常生活での使用頻度が低い漢字の読み書きや、意味に応じて使い分けが必要な同音異義語に課題がみられます。授業では、漢字が持つ意味を考えさせたり、学習した語句を日常生活でも使わせることを心掛けましょう。

★「話すこと・聞くこと」では、選択肢の問題は正答率が高いですが、記述の問題になると正答率が下がる傾向にあります。授業では、「相手意識」を持って状況に応じた話し方や聞き方をする場面の設定を取り入れましょう。

★「読むこと」では、毎年、文章の構成を読み取ることに課題があります。書き手の論理の展開や作品の展開についての意図を読み取ることは、書き手のものの見方や考え方をとらえたり、文章全体の理解を深めたりする上でとても重要です。授業では、段落分けや小見出しを付けることに挑戦させましょう。その際には、キーワードや接続詞、具体例に注意しながら読むといった、構成を読み取るための方法について教えることが大切です。

★「書くこと」では、自分の伝えたい事柄や考えが相手に伝わるようにするためにはどのように書けばよいかについて意識させる必要があります。「相手意識」を持ち、効果的に伝わるよう根拠をあげて具体的に書くことが大切です。授業では、教師が評価の観点を示し、自己評価や他者評価を行わせることで、客観的な視点を持てるようにしましょう。